

愛知県における災害対策に関する取組報告

市町と取り組んだ平時からの災害時保健活動体制整備事業

愛知県春日井保健所健康支援課 松本 華子

(前愛知県西尾保健所健康支援課)

本日の内容

- 愛知県における災害時保健活動体制整備の取組
- 愛知県西尾保健所の概要・被害想定
- 令和5年度西尾保健所における市町と取り組んだ災害時保健活動体制整備事業
- まとめ

愛知県における災害時保健活動体制整備の取組

年 度	マニュアル	事業・訓練等
平成15年度	愛知県災害時保健師活動マニュアル作成	
平成16年度	愛知県災害時保健師活動マニュアル (応援・派遣編)作成	
平成23年度		災害時保健活動体制整備状況調査開始
平成24年度		災害初動時情報伝達訓練開始
平成25年度	愛知県災害時保健師活動マニュアル 改正	
平成26年度		災害時保健活動研修開始
平成30年度		災害時保健活動体制整備強化 事業開始
令和 2 年度	愛知県災害時保健師活動マニュアル 改正	

愛知県災害時保健師活動マニュアル
～保健活動の推進に向けて～
(令和 3 年 3 月)



愛知県における災害時保健活動体制整備の取組

1 災害時保健活動体制整備強化事業（医療計画課・県保健所）

・災害時保健活動受援体制の整備事業（実施主体：保健所 年4回以上）

保健所と市町村が連携し、災害時保健活動受援体制の整備及び強化を行う

内容 (1)災害時要支援者名簿の作成及び更新

(2)地区活動を通じた地域の情報収集及び分析

(3)「災害時地域まるわかり情報シート」の更新（図1）

(4)管内市町村の災害時保健活動の課題検討、災害時保健活動マニュアルの作成・見直しに関する支援等

・災害時保健活動体制整備報告会（実施主体：医療計画課 年1回）

2 災害時保健活動研修会（医療計画課）

毎年度1回開催 対象：県及び市町村保健師

毎年度、対象者のキャリアレベルを変えて開催、研修内容もキャリアレベルに応じたものとしている。

3 災害時保健師初動体制構築訓練（医療計画課）

毎年度1回実施

参加者：県・市町村（指定都市・中核市含む）

※ 「3 訓練」に、「2 研修」で学んだ内容を取り入れ、実際に動けるかを確認する。
「3 訓練」で明らかになった課題を、「1 事業」を活用して解決する。

（図1）災害時地域まるわかり情報シート

（2）災害時地域まるわかり情報シートフェイスシート
〇〇市概要

〇年〇月〇〇保健所作成
(毎年5月末保健師所管課提出)
H31.2.25

災害時要配慮者 小児慢性特定疾病児童数 指定難病患者数 結核有病者数 身体手帳保持者数 療育手帳保持者数 精神手帳保持者数 (再掲) 透析患者数：身障1級(腎) (再掲) 在宅酸素療法患者：身障3級4級(呼吸器) (再掲) 在宅人工呼吸器装着患者：身障1級(呼吸器)	人口等 総人口 世帯数 出生数(出生率) 65歳以上人口(高齢化率) 死亡数(死亡率) 一人暮らし高齢者 生活保護受給者数/世帯数 外国人居住者数(割合)	医療機関等 医師会名称 歯科医師会名称 薬剤師会名称 病院数(再掲：災害拠点、災害支援、精神科) 診療所数 歯科診療所数 (再掲) 透析施設数 薬局数
地域の情報 ボランティアセンター数 子育て、在宅看護職等 民生委員数、主任児童委員数	市の位置  年 月 日現在※	教育機関等 保育所数 幼稚園数 小学校数 中学校数 高等学校数 短期大学数 大学数
地域の健康課題及び特徴 災害時に必要と考えられる以下の情報を入れてください。 ・ 地域の特徴 地理 地域特性(合併等) 交通事情 地域産業 ※地域により人口構成や外国人在住者等の特徴的なことがあれば記載 ・ 災害時の危険状況 南海トラフ地震等での被害想定被害が甚大な地域(災害種別)等 ・ 医療圏 ・ 災害時対応保健所、災害医療対策会議開催保健所が異なる場合は記載 ・ 災害時の医療機関等(他市利用等)	市町村役場 (防災担当課、住所、防災無線、WEBメール) 市町村保健医療受入窓口 ※詳細図添付のこと(担当課、住所、防災無線、WEBメール、担当者) 保健師数(保健部門、福祉部門、その他) 統括保健師名()	介護施設等 介護施設数(介護療養、特養、老健) 訪問看護ステーション数 在宅介護支援センター数 地域包括支援センター数 有料老人ホーム数 福祉施設等 母子生活支援施設数(名称) 児童養護施設数(名称) 障害者福祉施設(施設入所、短期入所) 救護施設数(名称) 避難所・医療救護所 指定避難所数 福祉避難所数 医療救護所数

※近隣医療機関・施設を利用している場合は明記する

※提出年度の4月1日現在の市町村連絡窓口を記入

愛知県西尾保健所の概要・被害想定



あいち防災キャラクター「防災ナマズン」

・西尾保健所の概要

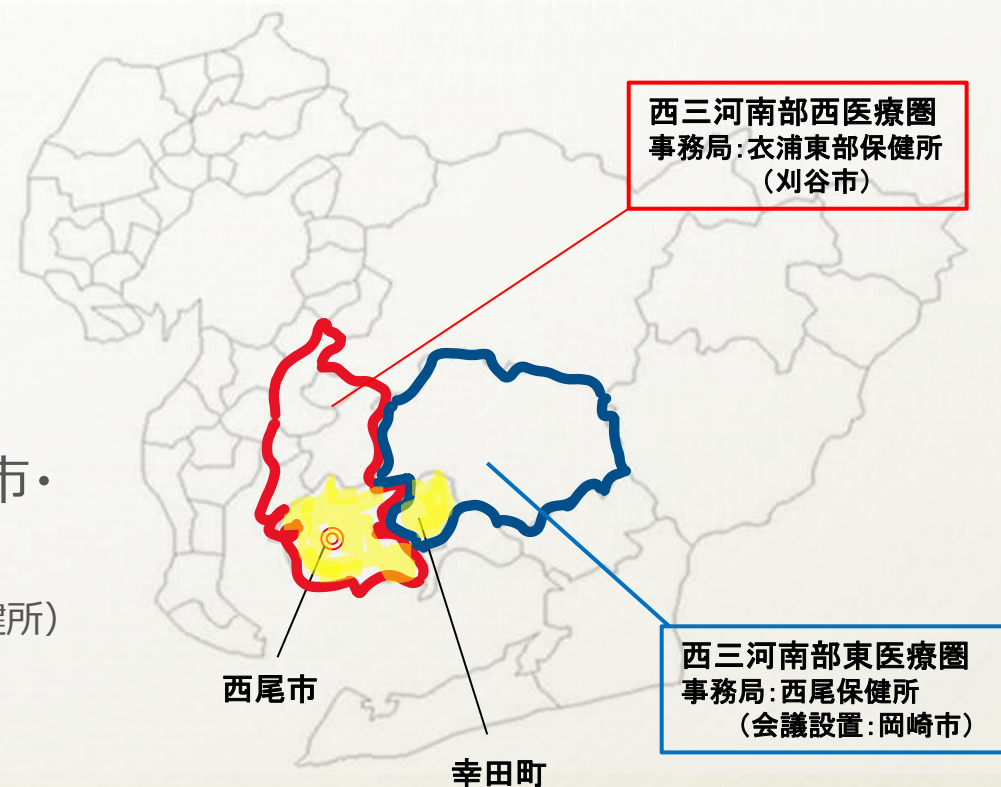
管轄市町 : 西尾市 (167,907人)・幸田町 (42,207人)

資料 : あいちの人口 2023.10.1現在

2次医療圏 :

西三河南部東医療圏 : 岡崎市・幸田町
(保健医療調整会議事務局 : 西尾保健所)

西三河南部西医療圏 : 碧南市・刈谷市・安城市・知立市・
高浜市・西尾市
(保健医療調整会議事務局 : 衣浦東部保健所)



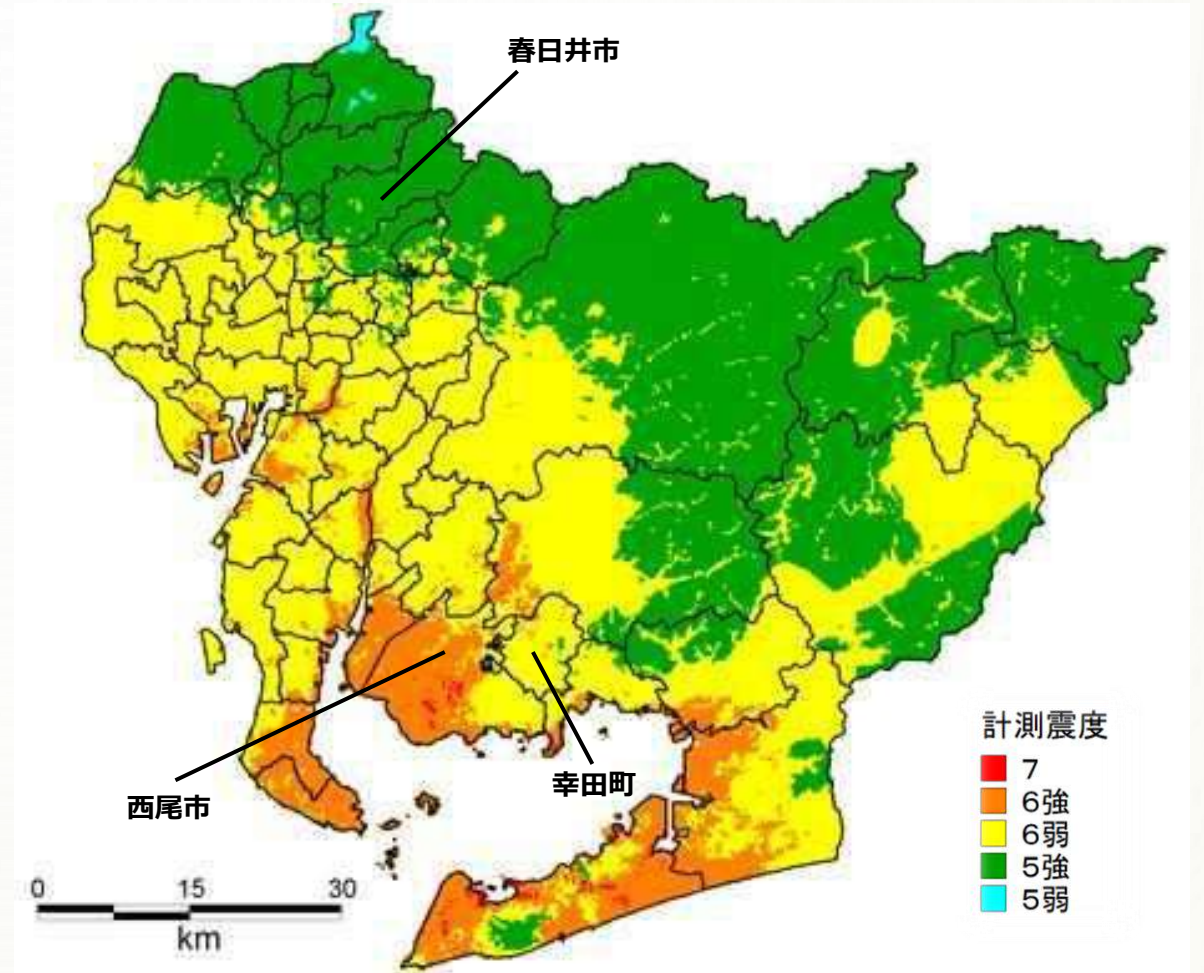
被害想定

死者・建物被害

	死者（人）		建物被害(全壊・焼失)（棟）	
	過去地震最大モデル	理論上最大想定モデル	過去地震最大モデル	理論上最大想定モデル
西尾市	約1,800	約3,200	約15,000	約31,000
幸田町	約10	約60	約200	約1,100
名古屋市	約1,500	約5,300	約20,000	約64,000
春日井市	* (被害わずか)	約10	約300	約800
愛知県	約6,400	約29,000	約94,000	約382,000

西尾市の過去地震最大モデルによる想定死者数は
県内第1位！

＜震度分布「過去地震最大モデル」による想定＞



資料：平成23年度～25年度 愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査結果
(平成26年5月)

令和5年度西尾保健所における 市町と取り組んだ災害時保健活動体制整備事業

1 経緯

- 管内の南海トラフ地震発災時の管内被害想定が甚大
 - ・ 保健所の発災時の所内体制や保健師初動体制（アクションカード）の見直しが未着手
- 訓練に、研修で学んだ内容を取り入れ、実際に動けるかを確認し、そこで明らかになった課題を、体制整備強化事業を活用して解決する（スライド4枚目 3の※参照）仕組みが、地域の特殊な事情から、当保健所だけでは取り組みづらい。
 - ・ 管内市町の被害想定が甚大なことから、まずは管内市町とともに体制整備に取り組む必要がある
- 管内保健師等リーダー会議での市町からの意見

「災害時保健活動マニュアルの見直しや初動体制整備ができていない」

↳ 保健所に体制整備に関する支援の依頼



- 令和5年度から改めて市町と保健所がともに災害時保健活動の体制整備に取り組む
- 災害時保健活動体制整備強化事業の他、保健師等専門技術向上事業（人材育成事業）、地域健康課題対応事業等において、災害対策を軸とした事業の展開



2 保健所の取組

(1) 所内体制整備に向けて

- 5月 : 所内保健師の活動体制の確認・今年度の取組について検討
参加者：所内保健師
- 6月 : 災害時保健活動マニュアルの確認・災害時要援護者台帳の更新
参加者：所内保健師
- 7月 : 災害時地域まるわかり情報シートの更新・災害時保健活動物品の確認
～8月 参加者：管内市町・2次医療圏域市（岡崎市）保健師、所内保健師
- 9月 : 所内体制の見直しについて・発災時の支援の方向性について共有
参加者：所長、次長、健康危機管理担当者（事務職）、保健師
- 8月 : 保健所保健師初動アクションカードの見直し
～3月 市町検討会時に進捗状況を共有

2 保健所の取組

(2) 災害時の個別支援及び地域の体制整備に向けて

<避難訓練> (地域健康課題対応事業)

- 6月 ALS患者
- 10月 小児慢性特定疾病児童 (医療的ケア児)
内容：避難訓練及び振り返りと課題の抽出・検討

<災害時個別支援計画作成に向けた検討会議> (地域健康課題対応事業)

- 10月 検討会議1 小児慢性特定疾病児童 (医療的ケア児)
- 11月 検討会議2 小児慢性特定疾病児童 (医療的ケア児)
内容：患児の情報共有、災害時に想定される課題明確化と対応策の検討

<研修会> (人材育成事業：地域保健関係者人材育成研修)

- 9月 「災害時の電源確保の方法について」、「人工呼吸器メーカーの災害時の対策について」
参加者：介護支援専門員、訪問看護師、市町保健師、保健所保健師 等

<会議> (難病対策地域ケア推進事業)

- 12月 難病対策地域協議会
内 容：意見交換「西尾保健所管内の難病患者等への災害時支援について」
参加者：専門医療機関、医師会、患者団体、訪問看護・居宅介護事業所、市町 (保健・福祉・危機管理担当課)

訓練及び検討会議の参加者：

患者 (児)・家族、ケアマネージャー、医ケア児コーディネーター、訪問看護師、訪問介護士、相談支援事業所職員、市町危機管理担当課・福祉課職員、主治医、MSW、医療機器メーカー担当者、保育園園長・看護師

ケースによって、必要な方に声をかけました。皆さん、忙しい中、快く集まっていただきました。



3 管内市町（西尾市・幸田町）・2次医療圏域市（岡崎市）との取組

月	事業内容	参加者・助言者(講師)
7月	(人材育成事業：新任期保健師等保健指導研修) 講義：地域診断の必要性 演習：地域診断に基づいた災害時地域まるわかり 情報シートの更新	講師：大学教授 参加者：管内市町・2次医療圏域市（岡崎市）・保健所 保健師
7月	(人材育成事業：市町村保健師現任教育) 講義：「愛知県災害時保健師活動マニュアル」策定から見た大切なこと 情報共有(交換)：各市町の被災想定、災害時保健活動体制整備状況について 今年度の活動計画について	講師：大学教授 参加者：管内市町（保健師・防災担当）、2次医療圏域市（保健師・防災担当）、保健所保健師等
12月	会議 「災害時保健活動体制整備に向けた市町・保健所連携会議会議」 ・R5の取組状況と次年度計画について ・R5 災害時保健師初動体制構築訓練の事前打ち合わせ	助言者：大学教授 参加者：管内市町・2次医療圏域市（岡崎市）・保健所 保健師
1月	災害時保健師初動体制構築訓練（医療計画課主催）	管内市町・2次医療圏域市（岡崎市）、保健所 保健師
3月	(管内保健師リーダー会議) 会議 ・能登半島地震保健師派遣 活動報告 ・R5の振り返りとR6の取組について	管内市町・保健所保健師



3 西尾市との取組（検討会）

月	事業内容	参加者・助言者（講師）
8月	<p>西尾市検討会①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市保健師と災害時初動体制整備の進め方、内容の検討 ⇒「西尾市版災害時保健師活動マニュアル」の見直しに決定 愛知県災害時保健師活動マニュアル内「市町村保健活動の実際」を参考にし西尾市の状況と照らし合わせて見直し （保健所：災害時初動体制アクションカードの見直し） ・次回までの取組について確認 	市保健師 保健所保健師
9月	<p>西尾市検討会②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市及び保健所の取組の進捗状況と課題の共有及び検討 西尾市版災害時保健師活動マニュアルの見直し・初動活動アクションカード作成の進捗状況報告 ・次回までの取組について確認 	市保健師 保健所保健師
10月	<p>西尾市検討会③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市及び保健所の取組の進捗状況と課題の共有及び検討 西尾市版災害時保健師活動マニュアルの見直しの進捗状況の報告 ・次回までの取組について確認 	市保健師 保健所保健師
2月	西尾市検討会④ 中止	

西尾市検討会から把握できた強みと課題

<強み>

- ・市職員間の連絡手段として「LoGoチャット」※の使用が可能。個人携帯でも活用できファイル保存も可能
- ・災害時保健活動ポケットマニュアル作成
- ・保健師は定期的にトリアージ研修を受講している
- ・保健師のチームワークが抜群！

※logoチャット : 自治体専用ビジネスチャットツール

<課題>

第1回

- ・医師会・歯科医師会・薬剤師会の名簿整理が未着手
西尾市版災害支援ナースの登録者の更新ができていない
- ・保健活動マニュアルの整理が必要
- ・受援体制が未整備

第2回

- ・要援護者や医ケア児の担当課ではないため、情報の集約状況が不明
- ・保健師応援派遣要請数の算出が難しい
- ・発災時は何から保健活動を進めてよいか迷う

第3回

- ・受援体制の準備はどこまで考えておけばよいか
受援のイメージが膨らまないためアクションカードに落とし込めない

会を重ね、検討が進むと、それぞれの段階で、いろんな「どうしたらいいかな？」が出てきました。
保健所は何ができるかな？と毎回悩んでいました。



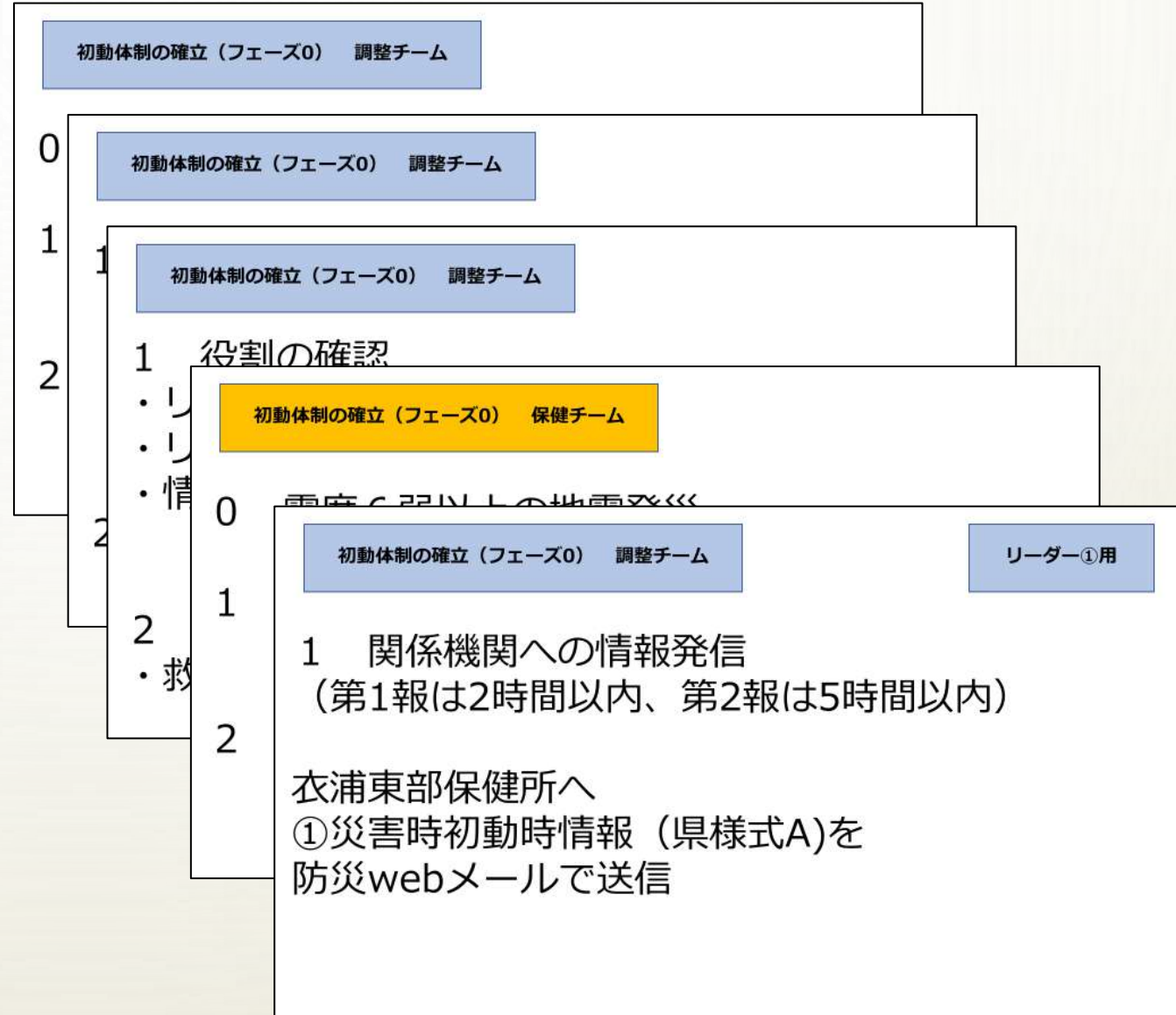
西尾市防災マスコット「ぼうサイくん」

取組成果 (一部抜粋)

<保健活動マニュアル>

避難指示等 発令時	フェーズ0	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	フェーズ4	フェーズ5
発災前	発災後 24時間以内	発災後 72時間以内	避難所対策が 中心の時期	避難所から概ね 急仮設住宅入居ま での期間	応急仮設住宅対策や 新しいコミュニティづくり中心の時期	コミュニティの再構築と 地域との融合
地域の被災状 況等の情報取 集を行い、要 配慮者が災害 に備えた行動 をとることが できるよう支 援を行う。	地域の被災状 況等の情報取 集を行い、引 き続き要配慮 者の安否確認 を確立し、要 配慮者の安否 確認を行う。	地域の被災状 況等の情報取 集を行い、引 き続き要配慮 者の安否確認 及び避難所及 び自宅滞在者 への保健活動 を開始する。	引き続き、避難 所及び地域にお ける要配慮者へ の保健活動の実 践が行われる。 (家庭訪問、巡 回健康相談の実 施)	日常生活移行支 援のための応急 仮設住宅及び地 域における保健 活動の実践が行 われる。	応急仮設住宅において、精神保健活動に重点を置き新たなコミュニティ づくりをめざしながら日常生活への支援を行うと共に、被災のショック や喪失のショックから住民が早く立ち上られるようなサポートシステム 及びプログラムの展開をする。	
災害時保健活動体制 指示命令系統の確 立 庁内や課内での保 護 防災計画、各種マ ニュアル 災害時 活動 健康相談票等の準備 通信 稼働 指示 役割		【対策：通常業務の調整準備】 【対策：通常業務の調整、実施判断】 【対策：非常時優先業務の調整、実施判断】 【対策：非常時優先業務の調整】		【対策：通常業務再開に向けての調整】	【対策：通常業務の再開】	
地域の被災状況等の 避難情報発令の把 握 気象情報等の収集 ハザードマップの 把握 被災情報の収集 災害 被害 道路 医療 避難 保健		保健活動体制の準備 □起こりうる保健活動の予測 □健康相談票等の準備 初動体制の確立と方針決定(初期保健活動計画の策定) □通常業務の中止・延期等について決定(業務継続計画(BCP)の確認) □初期保健活動計画策定	初期保健活動計画の修正、見直し □新たな被災地情報から初期保健活動計画を修正 保健活動計画の修正・ロードマップの作成 □中長期的な保健活動計画の立案(終了時期の検討を含む)	保健活動の評価と保健活動計画の修正 □保健師の配置、応援派遣保健師の終了時期について再検討 □保健活動について評価 □保健所と市町村の役割分担の再検討 □長期的な保健活動計画の立案	通常業務への移行準備及び開始 □優先順位を考慮し、通常業務の準備 通常業務の実施 □業務の優先を考慮し通常業務へ移行 □保健医療福祉等関係機関と常に連携をとり、 地域再建支援に向けての施策を検討 □保健・福祉施策等を一本化した総合的活動の展開	
保健活動のために必要な物品保管場所確認 保健活動のために必要な物品の確保 □活動のための予算計上		保健所及び関係機関との連携 □医療(救護)チーム、こころのケアチーム、薬剤師・栄養士等の公衆衛生チームとの調整及び連携 □関係機関との活動調整のためのミーティングの実施 □市町村の高齢者及び福祉関係課等との連携 □地域包括支援センター等との連携 □活動従事者間での調整のためのミーティングの実施	健康福祉ニース調査の検討と準備 □被災地への健康福祉ニース調査について保健所と検討 □被災住民への健康福祉ニース調査の実施	□医療・保健関係機関との連携 □市町村の保健活動体制の充実 □保健活動・健康福祉ニース調査等のデータの集約及び分析 □健康課題に対応した事業の実施 □市町村の活動方針の再検討 □市町村の保健活動のまとめの作成		

<初動アクションカード(作成途中)>



3 幸田町との取組（検討会）

月	事業内容	参加者・助言者(講師)
8月	<p>幸田町検討会①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町保健師、栄養士と災害時初動体制整備の進め方、内容の検討 ⇒「災害時アクションカードの作成」(保健師・栄養士別)に決定 (栄養士は別に検討を開始) ・次回までの取組について確認 	町保健師・栄養士 保健所保健師・栄養士
10月	<p>幸田町検討会②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町及び保健所の取組の進捗状況と課題の共有及び検討 幸田町版災害時アクションカード作成の進捗状況の報告 ・次回までの取組について確認 	町保健師 保健所保健師
2月	幸田町検討会③ 中止	



幸田町検討会から把握できた強みと課題

<強み>

- 町で参集訓練が実施される
毎年、発災時の参集状況調査を実施 ⇒休日夜間発災時に、誰がどのくらいで登庁できるか把握できる。
- リーダー保健師を中心に保健師のまとまりが強い！
皆で考え、気づき、声にできる（1年目の保健師も提案できる！）

<課題>

- 休日夜間に2時間以内に参集できる保健師が3～4名（全保健師11名）
- 災害時の役割が課ごとに割り振られているため、保健師全体の活動は難しい。
- 発災時に幸田町へ参集できる医師・看護師も少人数と思われるため、まずは救護所の立ち上げと運営が必要
⇒ どのタイミングで保健活動に切り替えられるだろう？
- 幸田町災害時保健活動マニュアルの見直しができている
- アクションカードの所在がわからない ⇒何から始めたらよいのかわからない。不安！

取組成果 (作成途中 一部抜粋)

<参集・役割決定編>

(3-1) 参集人数確認・役割決定

(3-2) 参集人数確認・役割決定 (参集状況に合わせた機能別組織表)

(3-3) 参集人数確認・役割決定 (保健医療福祉ニーズ把握)

(4) 情報収集：活動拠点

- 参集途上で把握した被害状況を報告
ホワイトボードに記録していく。
- 活動拠点の建物の状況確認
幸田町役場
幸田町保健センター
救護所となる幸田中学校の状況確認
⇒ 対策本部と医療救護所の開設について
検討する時の材料とする。

<時間内対応編>

1. 時間内発生時

統括用(時間内発生時)災害状況確認・指示

- 来所者の安全確認 誘導 救出を指示

リーダー用(時間内発生時)

災害状況確認・指示

- 揺れがおさまりしだい、安全確保の案内
- 職員の所在・安否確認
- 外出職員、会計年度任用職員の安否確認
- 町内災害状況の把握
- グループ間の人員調整
- 防災無線、一般電話、FAXが開通しているか確認
- パソコン、インターネットが利用できるか確認
- 状況を統括に報告
- 災害対策本部からの指示を統括より受け、メンバーに状況、方針を説明

まとめ ー課題と今後の方向性ー

- 保健所が実施する様々な事業に災害対策を意識したことで、保健所保健師は、ケース支援を通して年間を通じて災害対策について考えるようになり、保健所内だけでなく所外関係者とも意見交換の機会を多く持つようになった。
- 市町については、本取組を通して、各市町の災害時保健活動の準備状況を確認し課題の整理をした。その結果、令和5年度は保健活動マニュアルの見直しやアクションカードの整備など保健活動の基盤となるものに取り組むことができた。
- さらに、検討会において市町から、「受援の準備はどこまで考えたらよいか。受援のイメージができない。」との意見があり、令和6年度は令和5年度を取組の継続に加え、受援に関する具体的な準備を進めるという方向性を、保健所と市町で合意することができた。
- 令和5年度末に予定していた各市町の検討会では、1年間の取組や災害時保健師初動体制構築訓練等の振り返りと見直しを予定していたが、保健所保健師の災害支援派遣のため中止となった。検討会において事業等の評価はできなかったが、市町・保健所の保健師は、これらの事業は連動していることを理解し、取組や訓練から学んだことや見えてきた課題を次の取組に生かそうとする意識をもっていることを実感することができた。
- 令和5年度、改めて災害時保健活動体制整備に取り組んだが、まだまだ保健所、市町とも十分な整備ができたとは言いがたい。災害対策は一機関でできるものではなく、市町との連携は非常に重要であるため、今後も共同して取り組んでいくこととしている。

ご清聴ありがとうございました。

